

【朔幣祭(さっぺいまつり):<鎮火(火伏せ)>】<国神神社>

立石地区では、毎年12月に月番当番者が公民館に集い、青竹での徳利(20個)作り、藁で縄を振り(30尋)国神神社の本殿には手作りの注連縄を張り、お社、ご神木等には、注連縄を巻いて、手作りした青竹徳利を吊るし、神酒を入れて奉納しております。

<朔幣祭>の由縁(歴史民俗資料館資料より抜粋)

昔、佐竹戸村氏の城主戸村八郎義広は、雨の夜に不動坂で傘の上を握って空へ引き上げようとする怪物に出会い、腰の太刀にて傘の上を横に一太刀「ヤァー」と払うと、「ギャァー」と悲鳴が上がり、大猿の片腕が落ちてきた。大猿は、片腕を拾いあげて大山(城里町白山)の方に飛び去った。

片腕を切り落とされた大猿の仲間は、恨みを晴らすために、戸村建徳院をはじめ家々に火をつけ、村中一軒残らず焼き払ってしまった。義広は、文殊院の高僧に真言秘宝の宝刀で妖怪を封じ込める様に命令した。そこで小さな社を作り、大猿の霊を祭り、お参りにきた村人に「鎮火早平(ちんかさっぺい)」と唱えさせた。これが「サッペイ祭り」の始まりで、この後は村中を焼かれた日を忘れないために、霜月(11月)に入ると農作業を休んで、鎮守様や坪内の氏神様に青竹で作った「徳利」に神酒をいれて奉納し、「サッペイ、サッペイ」と唱えながらお祈りすると、火事の災難を防ぐことができるといわれ、今も続いている。義広の墓は、戸村龍昌院にある。(青少年育成那珂町民会議会報)



立石バーベキュー大会<令和1年11月24日(日)立石公民館にて開催>

この企画は、地域の融和を目的に、平成22年から開催され、今回、10回目の節目を迎えることができました。メニューも、各種バーベキュー、焼き鳥、ご婦人方協力の自慢のけんちん汁による打立ての蕎麦、うどん、餅つき等趣向を凝らしております。

今回は、雨天での開催となりましたが、公民館前にテントを2張り設置して各種料理を準備、又、餅つきは、隣宅の倉庫をお借りして実施し、約50名の参加を得ることができました。

第10回の節目を迎えることができたのも、ひとえに、地域の皆様のご協力の賜物です。これからも、若手が中心となり、盛り上げて行きたいと考えております。 <開催事務局>



撮影：小林久雄様

令和2年度のまちづくり委員会活動に向けて

戸多地区まちづくり委員長 根本文雄

戸多地区の皆様には「戸多地区まちづくり委員会」活動にご参加、ご協力をいただきありがとうございます。お陰様で令和元年度の行事を予定通り進めることが出来ました。令和2年度も健康、安全で楽しい地域づくりを目指して行事を計画してまいります。

行事計画のため、まちづくり委員会の四部会では本年度実施した行事を振り返り、

①戸多地区の幅広い年齢層、多くの方に参加いただける行事、②体験型行事、達成感の得られる行事、③安全、安心を支えることなどを目標に令和2年度の具体的行事、内容を検討しているところです。

また、令和2年度は戸多交流センターの会議室、和室、旧料理室、旧音楽室、グランド、体育館などを大いに利用していただきたいと思います。「健康体操」「つるし雛を飾る会」「子どもたちの学習を支援する会」などの団体の皆様がより活動しやすくなるよう協力してまいります。多くの皆様にはグランドゴルフなどのスポーツ、和室での読書会、各種会議など多様な用途にご利用いただければと思います。

第6回戸多まつり（三世代交流事業）

11/10（日）晴天に恵まれ、先崎市長をはじめ多数の御来賓を頂き、700名弱の参加者があり、盛大に開催されました。



開会式



パン食い競走



那珂太鼓



玉手箱拾い競争

市長と話そう 輪い・和い座談会を開催～中谷原自治会

中谷原自治会では11月30日、中谷原公民館において先崎市長はじめ市役所の企画部長・産業部長・教育部長ほかを招いて「市長と話そう 輪い・和い座談会」を開催しました。

高校駅伝茨城県予選会

総合公園をスタート・ゴールにするマラソン大会

ひまわりフェスティバル

県道の交通規制

植物園・県民の森の活用

等について活発な意見交換がなされ、参加者からは

市長の意見が聞けて良かった。

自分たちの考えていることを言えてよかった。

などの声がありました。



大内「すみれ会」日本善行賞受賞

大内地区の「すみれ会」は（社）日本善行会「令和元年度秋季善行表彰」を受けました。

「すみれ会」は大内公民館の清掃（月1回）、敷地の草取り（年4回）、地区内の資源ゴミ回収を43年間継続実施し、さらに高齢者への心配り、会員相互の絆を深め、会員が地域活動に積極参加してきたことなどが認められたものです。

表彰式は11月30日（土）明治神宮参集殿で行われ、会長の大曾根和子さんが受賞してきました。

（社）日本善行会は、日本全国でボランティアによって行われている様々な善行活動について、その行為を称えた表彰を行うとともに、善行精神の普及、善行実践活動を通じて明るく住みよい社会環境づくりを目指しております。



大内「鹿島諏訪神社」改修工事竣工

大内の「鹿島諏訪神社」は那珂川近くでの長い歴史を経て、江戸時代に現在地に移されたと言われてきた。移された後、拝殿、本殿、瑞垣は補修されながら現在に至ったが、近年特に拝殿の老朽化が著しく、また、平成30年9月鳥居が突然倒壊する事態も発生した。更に江戸時代に切石を使って作られた参道階段(88段、標高差21.5m)は急峻でかつ階段踏み面が狭く、参拝する人の上り下りには非常に危険であった。

これらの状況を解決するために大内地区では「鹿島諏訪神社改修工事推進協議会(委員:14人)」を発足させ、1年半、9回にわたる協議会を重ねて工事規模・方法を検討してきた。その結果、氏子の皆様に工事費用のため多額のご懇志の願いにご同意いただき、また地主から車道新設のための用地の提供をいただくことにより改修工事に着工した。

工事は拝殿土台交換を含む大改修、屋根塗装、鳥居建立、鳥居前市道から境内まで通行できる車道の新設とし、それぞれ責任者を決め推進した。工事は責任者、工事業者が一体となり多くの時間と労力を注ぎ込み押し進めた。また、地区内の多くの方に解体廃材処分、車道新設のための伐採樹木処分など多くの労力奉仕をいただき、令和元年8月に無事竣工した。竣工式は11月23日新嘗祭に合せて執り行い、宮司様から工事竣工を祝い、氏子の安泰を祈っていただいた。

大内地区ではこの事業で得られたまとまりを大切にして、これからの世代の発展、幸せにつながることを願い続けたい。

